

と き：平成18年2月22日(水) ところ：東京大学山上会館

第45回定時総会資料(抜粋-1)

平成17年度事業報告

平成17年度決算報告

SICE[®]

社団法人 計測自動制御学会

2005（平成17）年度事業報告

I 概況

（一般事項）

2005年度は、SICEの社会的使命を踏まえ、激変する環境動向に柔軟に対応すべく2004年度に検討された改革計画を実現するために、以下の具体的な活動を展開した。

1. 新理事会構成

支部を部門とともにSICEの活動の両輪と位置付け、2005年度より支部協議会を設けて担当理事を置いた。また、理事タスクフォース制度がスタートした。教育・認定、学会連合、会員・広報、IT、将来ビジョン、学会運営モデルのタスクフォース担当をおき、積極的な活動が行われた。1年の活動を振り返り、タスクフォースの進め方、職務の継続維持が今後の課題である。

2. 国際化対応

8月に岡山大学にてSICE Annual Conference 2005が盛況に開催された。各部門・部会から多数のオーガナイズセッションを提案した。また、国際学会にふさわしく海外から30%弱の発表の投稿があり、アジアの主要会議としての位置付けを確保しつつある。2006年度は、Annual Conferenceの初の海外での開催となるため、韓国側との念入りな準備を遂行しつつある。また、英文論文誌の発行を目指してその仕組みの検討を行い、答申案が理事会にて承認された。2006年度中に新しい英文論文誌を発行する具体的な体制を確立する。

3. 横幹連合活動支援

11月に第48回自動制御連合講演会と第1回横幹連合コンファレンスの合同開催が行われ、幹事学会として積極的な支援を行った。

4. 将来ビジョンの検討

これまでのSICEテクノロジービジョンの検討結果を会誌に連載し普及広報活動を行った。将来ビジョンの具現化をめざして、組込み・ハイブリッドシステム調査研究会を発足した。また、一方、SICE Cityという名称で新社会生活空間の創造を目指した計測・制御・システムによる新しい都市創造を目指す準備委員会を発足することになった。

5. 学会運営モデルシステム

新学会運営モデルシステムの構築が行われた。大会運営支援システム、論文誌・学会誌編集査読管理システム、会員データベースシステムが構築され、システム・情報部門学術講演会にてトライアルを行った。2006年度からの実施に先立ち、各部門・支部への説明を行った。

6. 教育認定事業

計測制御にかかわるエンジニアの育成、支援のために教育認定事業を継続して行っている。2005年度は、初級計測制御エンジニア資格の新設と推薦認定の募集を行い、計測制御エンジニアの育成に努めた。

7. 公益法人の新制度移行準備

2003年度の監督官庁による公益法人実地検査における指摘事項について、特に事業規模と内部留保水準を適正化すべく、支部と部門への協力依頼を行い、ある程度の成果が得られた。しかし、なお指導基準を満足する水準まではいたっておらず、2006年度もさらなる改善が必要である。

8. 会員数の推移

2005年末の会員数を2004年末と比較すると表のようになり、会員の減少傾向が続いている。正会員を含む会員増のために、部門および支部において、特に学生と賛助会員への特別なサービスを実施した。Annual Conference や部門大会、シンポジウム等の参加者は多数であり、それを会員増につなげるため、2006年度も継続的な努力が望まれる。

	平成17年末現在	平成16年末現在	増 減
名誉会員	23名	23名	0名
正会員	6,631名	6,760名	△129名
学生会員	656名	678名	△22名
賛助会員	214社 266口	215社 267口	△1社 △1口

（1）企画委員会

本年度からの理事のタスクフォース制がスタートした。タスクフォース担当理事に各自のミッションの遂行を依頼した。

1. IT時代の学会運営モデルの実施

IT時代の学会運営モデルの製作を開始した。学会誌への投稿、SICE Annual Conferenceでの説明会、システム・情報部門学術講演会での試行が行われた。またIT委員会では、現在のホームページの改良と新運営

モデルの立ち上げに向けて、学会誌・論文集のアーカイブ化などコンテンツの検討を始めた。HPは、会誌、論文集とともに学会の重要な情報発信機能であり、拡大理事会での議論をもとに、ホームページ委員会の設立の検討を開始した。

2. SICEテクノロジービジョンの具体化

将来のSICEの存在意義とブランド力向上を目指して2004年度に立案したテクノロジービジョンの具体化への活動を継続して実行している。自動車産業などについては、組込み・ハイブリッドシステム調査研究委員会を発足した。福祉や社会基盤の分野へのSI技術による展開などいわゆるSICE Cityについて、キーパーソンの協力を得ながら、準備委員会を早期に検討することとなった。脳科学、バイオ、ナノなどのSICEにとっての未踏分野開拓については引き続き検討を行う。

3. 英文論文誌の発刊

SICEの国際的存在感の強化、SICE Annual Conferenceの完全英語化、および新学会運営モデル構築の進展を踏まえつつ、英文論文誌検討WGをスタートし、実施方法の検討を依頼した。拡大理事会での議論をへて、理事会に答申案が報告された。

4. 学会連合の推進

横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）に関しては従来と同様に、事務局へのサポートとともに、横幹連合の諸活動にも積極的に参加し活動を行った。11月には、SICEが担当する第48回自動制御連合講演会／第1回横幹連合コンファレンスが盛況に開催された。

5. 国際協力の推進

SICE Annual Conference のはじめての海外での開催(SICE-ICCAS2006)に向けて、ICCAS2005(SEOUL)およびSICE2005(岡山)等を通じて、韓国 ICASE との相互交流と準備を推進した。

(2) 会員・広報委員会

会員勧誘の一環として、若手技術者・学生を対象としたチュートリアル講演会を九州支部との共催により行った。本年度は「－SICE へのいざない：自動車産業界における SICE の役割－」をテーマに、自動車の一大生産拠点になりつつある北部九州地区（福岡市にある九州工業大学サテライトキャンパス）において12月20日に行い、38名の参加があった。

(3) 学会連合推進委員会

学会連合推進委員会（TF 学会連合から2005年度に創設）のミッションは特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）などと協力して学会横断的に活動を実施し、学術文化の向上発展に寄与するとともに、その成果を社会に還元する活動に本会として協力することを目的とする。平成17年度の報告は次の通りである。

1. 特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）設立総会に出席した。

2005年4月26日（火）、東京大学山上会館大会議室で開催された。

2. 特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）通常総会に出席した。

2005年4月26日（火）、東京大学山上会館大会議室で、1. に引き続き開催された。概要は以下の通りである。

- ・吉川会長挨拶

- ・経過報告：会員学会数42となる。財政的には自立に至らない。主要イベントとして、日本学術会議との共催シンポジウム（平成17年1月18日から19日）、第1回技術シンポジウム（平成17年1月21日）、横幹技術フォーラム（第1回：「横幹技術を考える」2004年7月14日、第2回：「エンジニアと知財」2004年9月22日、第3回：「科学技術、そして横断型技術の役割と重要性を考える」2004年12月15日、第4回：「持続可能な社会と産業界の役割を考える」2005年2月15日）

- ・議事：第一号議案 2004年度会計決算案および活動報告、第二号議案 新規加盟承認、第三号議案 特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合設立認証に伴う規約の付記の追加について、第四号 議案特定非営利活動法人設立への参画について

3. 第48回自動制御連合講演会／第1回横幹連合コンファレンスに協力した。SICEからもオーガナイズドセッションを企画した。

2005年11月25日（金）～26日（土）、JA 長野県ビル・アクティホール（長野市）で開催。発表論文数は合計して520件であり、参加者は自動制御連合講演会が482名、横幹連合コンファレンスが276名で、合計758名という盛況さであった。詳細は事業委員会報告に記載する。

(4) IT 委員会

1. ホームページ見直し

各理事持ち回りのホームページ定点観測ならびに理事会等での意見に基づいた情報の更新、特定情報へのアクセス利便性に関する改善を実施した。大幅な変更を伴う提案事項については、今後学会モデルでの反映を予定している。

2. 個人情報保護法への対応

来るべき個人情報保護法の学会への適用に先駆け、以下を実施した。

- 1) プライバシーポリシーの改訂
- 2) 個人情報保護の手引きの制定

3. 論文・会誌アーカイブ化の検討

論文・会誌のアーカイブの方式、来期予算化提案、並びにアーカイブに基づく会員へのサービスと、CD-ROM 出版による事業化の検討を行った。

(5) 将来ビジョン委員会

昨年度まで検討を行ってきたSICEテクノロジービジョンについて、その立案状況を会誌「計測と制御」Vol.44, No.7に掲載するとともに、SICE 2005 Annual Conference in Okayamaの併設行事としてワークショップ公開討論会を開催し、報告ならびに討論を行った。その結果、組込み・ハイブリッドシステム（EHS）調査研究会を理事会直結の形で設置し、産業競争力の一層の強化を図っていくこととなった。また、SICE Cityという名称を冠して新社会生活空間の創造を目指した計測・制御・システムによる新しい都市創造を集中的に検討していくこととなり、準備委員会を設置することとなった。

(6) 学会モデル委員会

理事会において承認された学会運営モデル構築の方針にしたがって、本年度は、大会運営支援システム、論文集・学会誌編集査読管理システム、会員データベースシステムを中心に開発を実施した。システム・情報部門学術講演会を対象としてプロトタイプシステムを試行し、実運用の目処をつけた。

(7) 学会賞委員会

1. 論文賞等の選考

論文賞、技術賞、著述賞、教育貢献賞それぞれの候補を選考し、理事会に報告した。この選考にあたっては、部門制度に対応した計測、制御、システム情報、システムインテグレーション、産業応用の5分野のカテゴリー（対象案件によっては複数のカテゴリー）で評価した。

2. SICE Annual Conference Award の受賞者決定と表彰

Annual Conference Award 運用規則に基づき、選考委員会を組織し（委員長 阪大・魚崎勝司）、International 部門、および、Young Author's 部門の受賞者を決定、8月10日のClosing Sessionで表彰し理事会に報告した。

3. 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い1月理事会に報告した。

(8) 部門協議会

部門制に移行して6年目を迎え、部門単位の活動が定着・円熟してきた。平成17年度は、各部門の自由闊達な活動と独立性を重視しつつも、計測自動制御学会全体での調和をめざして部門協議会を運営した。活発な部会・調査研究会の活動や部門大会の盛況などによって事業収益は引き続き黒字基調となり、部門基金化を推進した。以下、項目ごとに報告する。

1. 学会内外への委員派遣や推薦

論文集委員会、産業論文委員会、会誌編集委員会等への委員派遣、ファナック論文賞の推薦論文決定、他委員会への委員派遣や学会本部の依頼事項に対する実務作業などを行った。また、岡山で開催されたSICE2005のオーガナイズドセッションに積極的に参画し、来年度韓国釜山で開催予定のSICE-ICCAS2006プログラム委員の推薦も行った。

2. 広報活動の充実と会員増を目指しての活動

全部門においてホームページを持ち、各部門が部門広報委員を中心に活動を充実させ、SICE 会員増を目指している。また、学生と賛助会員に向けてのサービスを昨年度に引き続き実行した。特に、制御部門では、賛助会員向けの講習会参加費を実費のみで企画し、計測部門、産業応用部門では、賛助会員の部門大会参加費を無料化、さらに、計測制御技術を広く知ってもらうための講習会への講師派遣などを行った。さらに、3年前よりSICEの冠を付けた賞を、システムインテグレーション

部門のレスキュー工学部会が共催したロボカップ，レスキューロボットコンテスト部門賞として設置し，本年度も継続した．このように，SICE の PR や会員の増加に向けて様々な試みを実施した．

3. 会誌への寄与

よりいっそう会誌の充実に貢献すべく，通常の特集解説や一般解説のほかに部門が主体的に企画したりレー解説を連載した．昨年度からの継続の「システムインテグレーションの最前線」(SI 部門)は 11 回連載で 10 月号まで，「むだ時間システム入門」(制御部門)は 14 回連載の予定で 11 月号から開始した．

4. 論文の企画・実施

論文集の活性化に貢献するため，特集論文を今年度はじめて企画した．以下の 3 テーマの特集を提案，推進した (SI 部門)．

(1)レスキュー工学とシステムインテグレーション (12 月号)，(2)相互作用と賢さ，(3)医療福祉システムとシステムインテグレーション．

5. IT 運営モデル構築に貢献

計測自動制御学会にて現在構築している学会運営 IT システムを支援するために，システム・情報部門では部門大会に IT システムを試験適用した．この結果，IT システムのメリットを確認すると同時に，多くの課題も洗い出すことができた．今後も，さまざまな行事に適用して，より良いシステムの実現に貢献したい．

6. 部門協議会活動

各部門には部会，調査研究会や各種委員会が設置され，独自の運営体制が整い，また，部門基金，部門表彰など部門の規程もほぼ整備され，部門制は円熟期に入ったと考えられる．平成 17 年度は，年間 6 回の部門協議会を開催し，部門活動のあり方，事務局との業務の協調，部門間の調整等について協議した．特に IT 運営システムめぐって活発な議論が展開された．また，学会内の各委員会への委員派遣，SICE2006 プログラム委員会への委員推薦などについても協議した．

(9) 国際委員会

計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指すという中長期ビジョンのもと，国際委員会は以下の活動を行った．

1. SICE Annual Conference 2005

- ・本コンファレンスは，2002 年より徐々に国際化を進め，昨年はじめて完全英語化されて開催されたが，本年はさらに名実ともに国際会議として認められるよう，国際化を推進した．
- ・その結果，講演件数 801 件中，海外からの投稿が 233 件 (29%) と，昨年に比べ大幅に増加した．
- ・参加者総数は 1039 名で，過去最高を記録した．
- ・オーガナイズド・セッション (66 sessions, 327 papers)，海外著名研究者の招聘等を企画・実施した．

2. SICE-ICCAS 2006

- ・2006 年に韓国の ICASE と共同で韓国にて開催する，SICE-ICASE International Joint Conference (略称 SICE-ICCAS 2006) の準備を進めている．
- ・ICASE との間で覚書 (Memorandum of Understanding) を締結した．
- ・共同開催のため，会議構成，参加費，収支配分，論文査読，受賞者選定等，各種調整を行っている．

3. 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催，共催，技術主催／共催，協賛事項に関して審議・承認を行った．

4. 海外学術団体との連携

- ・SICE Annual Conference に対して，IEEE/IES，IEEE/RAS，IEEE/CSS，IEEE/SMC，Instrumentation，Systems，and Automation Society (ISA) より共催 (technically co-sponsored)，IEEE Japan Council，The Institute of Control，Automation and Systems Engineers，Chinese Automatic Control Society，China Instrument Society，IFAC-NMO Japan，IMEKO より協賛を得た．
- ・IEEE との間で学会間協定を継続締結した．

5. 部門・部会との関係

部門協議会・部会との協議のもとで，SICE Annual Conference への積極的な参画を促し，多数の OS を提案した．

(10) 出版委員会

1. 計測・制御テクノロジーシリーズの刊行の進捗管理を行った。
2. 計測・制御テクノロジーシリーズの次の新企画を検討した。

(11) 事業委員会

事業委員会のミッションは非会員に対して教育・啓発活動を行うこととし、従来からの活動を引き継ぎながら、新しい活動を企画・実施していくこととした。

1. SICE Week 2005

(1) 中高校生向け講演会：8月10日(水)岡山県立大学(総社市)において、広く科学技術に興味を持っていただくことを目的に、一流の講師による「ロケットと宇宙開発」、「最新の自動車技術」、「レスキューロボット」の講演を行い、参加者約30名を得て好評であった。(2) 企業技術者向け講演会：8月11日(木)三菱化学(株)水島事業所において、企業の技術者の方々を対象とし、統一テーマ「明日のプロセス産業を支える計測・制御・情報技術」で講演を行った。パンフ作りや配布資料作りが順調に進んだことと、三菱化学(株)水島事業所の全面的なご協力により、立派な会場で参加者72名を迎え盛大に行われた。

2. 第48回自動制御連合講演会／第1回横幹連合コンファレンス

2005年11月25日(金)～26日(土)、JA長野県ビル・アクティホール(長野市)で開催。主催学会は、自動制御連合講演会が、計測自動制御学会(幹事学会)、日本機械学会、システム制御情報学会、化学工学会、精密工学会、日本航空宇宙学会の6学会であり、併設して開催された第1回横幹連合コンファレンスは、43学協会からなる横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)が主催した。後援としては、JA全農長野、(財)長野県テクノ財団、(財)ながの観光コンベンションビューロー、横断型基幹科学技術推進協議会、信州大学繊維学部、信州大学工学部。実行委員会委員長鳥羽栄治(信州大)、幹事千田有一(信州大)、運営委員長永井正夫(農工大)。一般講演・オーガナイズドセッションに加えて、「モノづくりとコトづくり～信州から世界に発信する大型プロジェクトを通して」のパネル討論会、「科学技術創造を国造りに結実させる技術融合戦略」の特別講演(総合科学技術会議柘植議員)の他に、食品に関する講演を含む市民フォーラムを実施した。発表論文数は合計して520件であり、参加者は自動制御連合講演会が482名、横幹連合コンファレンスが276名で、合計758名という盛況さであった。

3. SICE 標準・規格

SICEが事務局を担当するJIS規格3件について引き続き見直し作業を行った。特に「自動制御用語」については、英語表記と日本語とのすりあわせを含めて引き続き検討した。

(12) 教育・認定委員会

教育・認定委員会では、会員に対する教育・認定事業を幅広く行うこととし、委員会規約を策定して、下記の4つのWGを設置し事業活動を具体的に実施した。

1. CPD WG

昨年度のCPDポイント申請者は6名。審査の結果6名とも承認し、会告に従い特典の付与と上位3名に対してAnnual Conferenceで、第1回目の表彰状を授与した。しかしCPD制度の広報が不足しているとの認識に立ち、Annual ConferenceでCPD広報のパンフレットの配布を行った。また、今までのポイント申請方法が受講者にとって面倒な面もあったため、主催者側から受講証を配布する方法に改めた。本変更内容を部門協議会や支部協議会に通知してCPD制度の広報活動を展開中である。

2. 計測制御エンジニア WG

従来の「計測制御エンジニア資格制度」に、新たに大学院生を対象にした「初級計測制御エンジニア資格」を設けて計測制御エンジニア資格試験を実施した。また、これと並行して会員の増強を図るため推薦認定の募集も時限的に実施中である。なお、この推薦認定の一条件としてCPDポイントも活用できるよう工夫した。また、計測制御エンジニアの活動を広く知ってもらう目的で、既存の計測制御エンジニアHPを新デザインに改訂し掲載内容の充実化を進めた(計測制御エンジニア資格取得者の紹介コーナーも新設)。

3. 技術者能力開発(PDE)協議会対応 WG

本年継続して委員会へ出席した。

4. JABEE WG

機械・電気分野審査委員会などに委員として参加し、積極的に提言を行うとともに、SICE関連分野での受審に不利にならないよう審査員養成を推進した。第1回横幹連合コンファレンスでの、

教育をテーマとした OS の企画運営に協力した。

(13) 会誌編集委員会

SICE会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流を目的とし、会誌「計測と制御」を年12回発行した。また、会員・学生会員・賛助会員へのサービス向上と学会の活性化を目指した活動を計画・実施した。具体的な実施項目を以下に挙げる。

1. 8回の特集号、4回のミニ特集号を発行した。特集号のテーマは、毎号異なるターゲットを想定したものとし、会員のさまざまなニーズに応えることを目指した。
2. 編集委員会を年6回、泊り込み企画会議は6月に開催し、特集号企画についての議論を行い、向こう1年分のテーマ案を作成した。
3. 部門を基礎とする学会の運用体制に対応して、特集号や解説記事の企画・運用を行う編集委員会の中の小委員会を、計測・制御・システム情報・産業応用・SIの5小委員会の構成とした。
4. SICEの今後の展望に関する理事会活動の報告を会員に広く認識していただくことを目的とし、「理事会だより」を第44巻第6号、第7号に掲載した。
5. SICE関連業務のIT化推進に関連し、会誌編集業務内容およびプロセスについて仕様を取りまとめ、来年度からの運用準備を行った。また、ホームページによる情報発信のあり方、特に、お知らせページ掲載情報についてのホームページでの公開方法について検討した。
6. 産業論文の認知度の向上と活性化のために、論文紹介および論文抄録を学会誌に第44巻第2号より掲載を開始した。
7. 賛助会員へのサービス向上のために、求人案内の会誌への掲載を企画し、第44巻第3号、第5号に掲載した。来年度も継続掲載の予定。さらに、賛助会員名簿のページに賛助会員入会のお願に関する記事を第44巻第8号より継続掲載した。
8. 学位情報記事の充実化を図るため、抄録を掲載することとし、規程を改正した。
9. 企業エンジニアや初学者をターゲットとし、分かりやすさを目指したチュートリアル的な解説記事を企画した。第45巻で掲載予定。

(14) 論文集委員会

論文集委員会は学術論文を定期発行することが第一の使命である。これを達成するために、適切な査読者の選定、論文査読状況の管理などの定常的な業務を遂行し、当初計画通り論文集を発行することができた。また、継続して論文集特集号の企画・発行等、投稿論文を増やす努力を進めた。これに関連して、12月号としてSI部門からの企画特集号が発行され、あわせて同部門から提案された特集号が2006年4月号と11月号にも企画されている。それらの結果、ここ数年間、低落傾向にあった論文投稿数の上昇を実現することができた。

論文集委員会の運営としては、部門制に対応した運営を継続した。また論文集委員会の開催をほぼ隔月ごととして回数を減らし、その代わりに、分野別の小委員会における査読者決定のための打合せや採録・返却等の確認を、電子メールを用いて行う体制を継続して、作業の効率化を図った。さらに昨年より査読期間（最初の査読と再査読の期間）を従来の半分に設定し、論文査読や論文投稿についても電子メールを利用した電子化を進めた。これに加えて、査読の迅速性を目指すため査読の判定項目を従来よりも簡素化した。これらにより、全体として、論文を受け付けて後に採否決定までにかかる期間が短縮された。

論文集および論文集委員会のIT化に関しては、現在の論文集委員会の業務から考えられる要求仕様をまとめて、システム開発会社と協議した。

英文論文については、原著を掲載する新しい論文集の編集形態と発行形態をワーキンググループで協議して、まとめた結果を得ることができ、理事会で報告と提案を行った。

またSICE Annual Conference 2005において、SICE 2005実行委員会との共同企画により、論文に関するワークショップを開催した。

(15) 産業論文委員会

- ・本年度は31件の投稿を得た。うち、17件の採録が決定し、14件がWeb掲載された。3件は掲載準備中である。2002年創刊よりの総採録件数は、42件となった。
- ・投稿者へ公約したCD-ROM化（CD-R）の第一回目を完了した。
（8月8日発行、33編収録、5,000円、会誌11月号にて広告）
- ・知名度向上、投稿者へのサービスのため会誌に論文抄録と広告を継続的に掲載することとした。
- ・査読効率化のため、論文管理システムを作成し試験的に導入した。

- ・査読者へ謝礼を支払うこととした。（1人 1,000円，1件の査読者2人）

（16）総務委員会

関連委員会，事務局などと連携して，主に下記業務を行った。

1. IT委員会との協業により，新学会運営モデルシステムの試行を開始した。また，現ホームページの見直しを行った。
2. 国際委員会との協業により，来年度のSICE-ICCAS2006開催の準備を開始した。
3. 岩瀬事務局長の退任に伴い，2006年1月1日付けで，島貫 洋君（東芝出身）を採用した。

（17）支部協議会

今年度から，支部の活動が自由闊達にできる環境を作り，支部間の連携を図ることを目的とする支部協議会を発足した。

1. 協議会規程の制定

支部協議会の目的や任務，構成，役員，職務などを定めた支部協議会規程を制定した。

2. ホームページの更新

内容のアップデートを主眼に改善に努めた。

3. 活動の整理

8つの支部の学術講演会やセミナー，研究会，見学会，表彰制度などについて整理し，意見交換を図った。

4. SICE2008 開催場所の決定

支部協議会で過去の開催場所や現状を踏まえ，2008年は関東にて SICE2008 を本学会単独で開催することを決定した。

5. 支部協議会共催チュートリアル講演会の提案

支部の役割として，次世代を担う若手研究者／技術者育成に結びつく支部協議会共催チュートリアル講演会について提案した。

（18）北海道支部

北海道支部が平成 16 年度に行った事業は以下の通りである。

- | | | |
|-------------|-----|--------------|
| 1. 支部学術講演会 | 1 回 | (05.1.27/28) |
| 2. 特別講演 | 1 回 | (05.1.27) |
| 3. 講演会 | 5 回 | |
| 第 1 回 共催 | | (05.1.14) |
| 第 2 回 共催 | | (05.1.25) |
| 第 3 回 共催 | | (05.2.2) |
| 第 4 回 共催 | | (05.10.28) |
| 第 5 回 主催 | | (05.11.24) |
| 3. 協賛事業 | | |
| ロボットトライアスロン | 2 回 | (05.10.2/23) |
| シンポジウム | 1 回 | (05.12.4) |
| 4. 第 42 回総会 | | (05.1.27) |
| 5. 役員会 | | |
| 第 1 回（評議員会） | | (05.1.27) |
| 第 2 回（幹事会） | | (05.6.29) |
| 第 3 回（幹事会） | | (05.10.20) |
| 第 4 回（評議員会） | | (05.10.20) |
| 第 5 回（幹事会） | | (05.12.6) |
| 第 6 回（評議員会） | | (05.12.6) |

（19）東北支部

1. 研究集会の開催

東北支部創設以来，脈々と続いている口頭発表形式の研究会であり，平成 17 年度は，東北大学，岩手大学，弘前大学，秋田大学，山形大学，日本大学，東北学院大学において合計 7 回実施し，226 回を数えている。平成 17 年度は計 96 件の発表があり，地域内の研究交流，学会の広報，若手会員の勧誘などの役割を果たした。また，30 歳以下の発表者の中で特に優秀な発表を行った者

に対して東北支部優秀発表奨励賞を授与しており、平成17年度は6名が受賞した。

2. 見学会の開催

今年度から新しい事業として見学会を開催した。東北電力の協力のもと「中央給電司令所」と「新仙台火力発電所」の2箇所を見学した。18名（うち学生13名）が参加した。

3. 講演会ほか各種行事の開催

本年度は、1件の講演会を主催するとともに、6件の講演会、2件の研究会・セミナーを共催した。

4. 役員会の開催

支部運営の主体である運営専門委員会を5回、役員・評議員・運営専門委員合同委員会を1回開催した。本年度は、特に、地域内交流の促進や新規事業としての見学会に関連する企画などについて検討を行った。

5. 会員勧誘の強化

学会の広報活動を行うとともに、会員の勧誘を行ってきた。特に、研究集会における優秀発表奨励賞受賞者を研究奨励賞に推薦するなどの方策を通して、入会活動を積極的に進めた。

6. 研究集会・講演会等の開催回数

研究集会	7回
講演会（主催）	1回
講演会（共催）	6回
共催研究会・セミナー	2回
総会	1回
運営専門委員会	5回
役員・評議員・運営専門委員合同委員会	1回

7. 東北支部優秀発表奨励賞6名

秋田敏宏、大瀧保明、斎藤和樹、加納拓貴、水野弘基、渡邊紘充

（20）中部支部

平成17年度における中部支部では、7つの研究委員会と3つの地区研究委員会が研究会、セミナー、シンポジウム、講演会、ワーキング・セミナー、見学会などを企画し、今年度も活発な活動を行った。また、研究委員会と支部事業委員会との共催行事によりいくつかの規模の大きい講演会、シンポジウムなども企画され、実施された。事業委員会は支部賛助会員還元事業として、見学会および講習会を実施した。この他、特別講演会が実施され、支部全体としても活発な活動が行われた。例年通り、支部賞の選考も行われ、研究賞1件、奨励賞2件の受賞が確定した。さらに今年度は、産学の連携、教育、若手研究者の育成等の研究および教育に関する活動を行うプレ研究会が認められ、2つのプレ研究会が活動を開始した。実施した事業を以下に示す。

総会	1回
役員会	4回
評議員会	1回
事業委員会	5回
支部賞表彰	1回
特別講演会	1回
学術講演会	2回
見学会	1回
講習会	1回
講演会	1回
シンポジウム	1回
研究会	27回
協賛行事	10回

支部賞受賞者

研究賞：矢野賢一（岐阜大学）

奨励賞：弓場井一裕（三重大学）、松野隆幸（名古屋大学）

（21）北陸支部

平成17年度における北陸支部では、学術講演会を3回開催した。さらに、支部会員特に企業会員が

らの要望を尊重して、共済講演会・セミナー・見学会などの積極的な活動を行った。支部主催・共催で実施した事業は以下の通りである。

1. 講演会	3 回	
第 1 回 (05.9.30)	第 2 回 (05.10.27)	
第 3 回 (05.12.10)		
2. 特別講演会	1 回	(05.1.17)
共催講演会	1 回	
スマートロボットに関する講演会		(05.1 月 45 名)
3. 学術講演会 (共催)	2 回	
日本機械学会北陸信越支部 第 42 期総会・講演会		(05.3.9)
平成 17 年度電気関係学会北陸支部連合大会 (共催)		(05.9.24・25)
4. 講習会・セミナー	1 回	
第 3 回ハイブリッドシステム拡大セミナー		(05.10.7)
5. 見学会	2 回	
金沢工業大学 夢工房		(05.9.30)
株式会社小松製作所 栗津工場		(05.11.21)
6. 総会	1 回	(05.1.17)

(22) 関西支部

関西支部における平成 17 年度の事業活動は、講習会、見学会、シンポジウムに加え、学生連絡研究会および安全・安心の科学研究会を継続した。例年実施しているシンポジウムは、学生会員拡大を目的として学生研究発表会という形を試みた。また、安全・安心の科学研究会主催によるシンポジウムも開催した。さらに、関西支部 40 周年記念事業として、準備委員会を構成し記念誌発行の準備を進めた。事業内容の詳細は次の通り。

1. 特別講演会	1 回	(05.2.1)
2. 講習会	1 回	(05.6.17)
3. 見学会	2 回	(05.7.8, 05.11.18)
4. シンポジウム	2 回	(05.3.7, 05.7.15)
5. 研究会	2 回	
6. 支部総会	1 回	(05.2.1)
7. 支部幹事会	6 回	
8. 特別幹事会	2 回	
9. 記念事業委員会	1 回	

(23) 中国支部

- 支部定時総会を 1 月に開催し、平成 16 年度事業報告、平成 16 年度決算報告、平成 17 年度役員、平成 18 年度事業計画、平成 18 年度予算案の承認を得た。また、特別講演会（演題：「三次元の形と動きの計測 ―最近のレンジファインダとモーションキャプチャの動向」、講師：広島国際大学教授 井口 征士先生）を行った。
- 役員会および拡大幹事会を 4 回開催し、支部運営の協議を行った。
- 第 14 回計測自動制御学会中国支部学術講演会を平成 17 年 11 月 19 日(土)、20 日(日)、島根大学松江キャンパスにて開催した。講演件数は、131 件、参加者は約 200 名であった。また、また、特別講演(演題：「独立成分分析に基づくブラインド音源分離」、講師：NTTコミュニケーション科学基礎研究所 牧野昭二氏)、チュートリアル講演(演題：「容器内の液面振動のモデリング」、講師：島根大学 池田 隆先生)を行った。
- 会員への学術・技術情報の提供のために講演会 (7 回)、グループ研究会 (12 回) を開催した。

学術講演会	1 回
講演会	7 回
グループ研究会	12 回
- 会議等の開催回数

総会	1 回
役員会	3 回
拡大幹事会	1 回

(24) 四国支部

四国支部の若年者また会員勧誘対象者を意識した講演会を企画・実施した。会員が広く活動範囲を得られるよう、他学会・支部内の高専等との共催事業にも積極的に取り組んだ。また、数年中断していた若年会員を対象とした四国支部奨励賞の募集を再開した。

以下に今年度の実施事業を報告する。

1. 総会 1回 2005年1月22日(土)
2. 役員会 2回 2005年1月22日(土), 2005年12月(予定)
3. 講演会 8回
4. 研究会 未開催
5. 共催事業 5回

第17回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム

技術交流会 2005 (高松工業高等専門学校)

2005年度電気関係学会四国支部連合大会, など

なお、四国支部奨励賞は、本年度は該当者なしであった。

(25) 九州支部

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動为目标に、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供
特別講演会、研究会 (SICE 九州フォーラム)、講義会、学術講演会、講演会などを実施もしくは実施予定。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。
2. 会員増加への取組み
学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICE の魅力を学生に伝える場を提供している。
3. 支部運営および事業企画・検討
総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討や改革、新企画の発案などを行った。
4. 実施事業

総会	1回
役員会	4回
評議員会	3回
事業委員会	2回
研究会(SICE 九州フォーラム 2005)	1回
学術講演会	1回
学生発表交流会	1回
講義会	1回
特別講演会	2回
講演会	10回
見学会	1回
共催研究会	3回
5. 平成17年度九州支部奨励賞授与
以下の支部4部門の4名に授与した。
【計測部門】山口 生 (九州工業大学) 【制御理論部門】光安 隆 (九州大学)
【制御応用部門】井上 学 (九州工業大学) 【システム応用部門】志岐 武宣 (九州工業大学)

II 事業

(1) 会誌「計測と制御」(Vol.44, No.1~No.12)を毎月発行

- | | |
|-----|-----------------------|
| 1月号 | 特集・生成的システム |
| 2月号 | 特集・プロセスを予測する/動かす/監視する |
| 3月号 | 特集・安全を追求する計測・システム技術 |
| 4月号 | ミニ特集・GPSを用いた誘導制御 |
| 5月号 | ミニ特集・学習理論って何? |
| 6月号 | 特集・計測制御ネットワークの標準化 |

- 7月号 特集・ハイブリッドシステムの最前線
 8月号 ミニ特集・数理計画法アプローチで新地平を拓く制御理論
 9月号 特集・移動知：能動的な移動機能がもたらす創発的知能
 10月号 特集・分解能の限界にせまる
 11月号 特集・社会にとけこむシステムインテグレーション技術
 12月号 特集・相互作用の本質にせまる～知的システムの理解と設計の新視点～
 総頁数 894 頁

(2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.41, No.1～12)を毎月発行

総頁数 1,058 頁
 掲載論文 123 件, ショート・ペーパー22 件, 開発・技術ノート 1 件,
 投稿論文数 244 件, ショート・ペーパー27 件, 開発・技術ノート 1 件, 討論 0 件
 購読数 1,979 部

(3) 産業論文

産業論文累計 34 編, 開発・技ノート累計 5 件 を Web 上で公開

(4) 英語論文

第 3 巻の Web 上で公開に向けて翻訳・編集を継続した.

(5) 講演会

1. 主催

- (ア) SICE Annual Conference 2005 (05.8.8-10・岡山大)
 (講演件数 801 件(うち国外 233 件), 一般セッション 74 セッション 474 件, オーガナ
 イズドセッション 66 セッション 327 件, 参加者 1,039 名)
 (イ) SICE Week「中高生向け講演会」 (05.8.10・岡山大・30 名)
 (ロ) SICE Week「企業技術者向け講演会」 (05.8.11・三菱化学(株)水島事業所・72 名)
 (エ) 第 48 回自動制御連合講演会／第 1 回横幹連合コンファレンス
 (05.11.25-26・JA 長野県ビル)
 (講演件数 520 件(自動制御 300 件, 横幹連合 220 件), 参加者数 758 名(自動制御 482
 名, 横幹連合 276 名))
 (オ) 第 4 回チュートリアル講演会 (共催: 九州支部) (05.12.20・福岡・38 名)

2. 共催

- (ア) 創成加工工学シンポジウム (2005.2.14・東京)
 (イ) 2005 年春季第 52 回応用物理学関係連合講演会 (2005.3.29-4.1・さいたま)
 (ロ) 第 43 回原子力総合シンポジウム (2005.5.26-27・東京)
 (ハ) RTE テクニカルフォーラム (2005.7.1・東京)
 (ニ) 第 42 回理工学における同位元素・放射線研究発表会 (2005.7.6-8・東京)
 (ホ) 第 35 回安全工学シンポジウム (2005.7.7-8・東京)
 (ヘ) 第 24 回混相流シンポジウム (2005.8.3・東京)
 (ト) 第 16 回計測連合シンポジウム「先端計測 2005」 (2005.8.8・岡山)
 (チ) 平成 17 年度工学教育連合講演会 (2005.9.3・東京)
 (リ) 第 49 回宇宙科学技術連合講演会 (2005.11.9-11・広島)

(6) 部門大会／部門学術講演会

- (1) 第 5 回制御部門大会 (05.5.25-27・仙台・268 名)
 (2) 第 22 回センシングフォーラム (05.9.29-30・大阪・156 名)
 (3) 産業応用部門 2005 年度大会 (05.10.18-19・東京・93 名)
 (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2005) (05.11.28-30・福岡・135 名)
 (5) 第 6 回システムインテグレーション部門講演会(SI2005) (05.12.16-18・熊本・927 名)
 (6) SI 部門市民フォーラム (05.12.15・熊本・805 名)

(7) 支部関係／支部学術講演会

- (1) 北海道支部
学術講演会 1 回, 講演会 5 回, 特別講演会 1 回, 協賛事業 2 回, シンポジウム 1 回
- (2) 東北支部
講演会 1 回, 研究集会 7 回, 共催研究会・セミナー 2 回, 共催講演会 6 回, 見学会 1 回
- (3) 中部支部
学術講演会 2 回, 特別講演会 1 回, 講演会 1 回, 講習会 1 回, 研究会 27 回, 見学会 1 回, シンポジウム 1 回, 協賛行事 10 回
- (4) 北陸支部
講演会 3 回, 特別講演 1 回, 共催講演会 1 回, 共催学術講演会 2 回, 講習会・セミナー 1 回, 見学会 2 回
- (5) 関西支部
特別講演会 1 回, 見学会 2 回, 研究会 2 回, 講習会 1 回, シンポジウム 2 回
- (6) 中国支部
学術講演会 1 回, 特別講演会 2 回, チュートリアル講演会 1 回, 講演会 7 回, グループ研究会 12 回, 講習会 3 回
- (7) 四国支部
講演会 8 回, 共催行事 5 回
- (8) 九州支部
学術講演会 1 回, 講演会 10 回, 特別講演会 2 回, 研究会 1 回, 共催研究会 3 回, 講義会 1 回, 学生発表交流会 1 回, 見学会 1 回

(8) 講習会

- (1) SICE セミナー「ロバスト制御入門」in 関西 (05.1.11-12・大阪・32 名)
- (2) SICE セミナー「制御のためのシステム同定」 (05.3.10-11・東京・51 名)
- (3) センサ総合展 2005SICE 計測部門セミナー (05.4.7・東京・70 名)
- (4) 第 5 回制御部門ワークショップ (05.5.24・仙台・44 名)
- (5) SICE チュートリアルセミナー (05.8.10・岡山・47 名)
- (6) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (05.9.12-13・東京・36 名)
- (7) SICE セミナー「実践的な制御系設計」 (05.11.11・東京・86 名)
- (8) SICE セミナー「拘束系の解析・設計」 (05.11.29-30・大阪・47 名)

(9) シンポジウム

- (1) 第 17 回自律分散システムシンポジウム (05.1.27-28・東京・108 名)
- (2) 第 5 回適応学習制御シンポジウム (05.3.7-8・東京・54 名)
- (3) 第 32 回知能システムシンポジウム (05.3.17-18・京都・171 名)
- (4) 第 1 回モーションメディアコンテンツ作品コンテスト (05.6.22・東京・40 名)
- (5) 第 11 回創発システムシンポジウム (05.8.19-21・富山・95 名)
- (6) 第 20 回生体・生理工学シンポジウム (05.9.5-7・東京・258 名)
- (7) 誰もが使いやすいバスへのシンポジウム (05.9.6・筑波・60 名)
- (8) 第 15 回インテリジェント・システム・シンポジウム (05.9.26-27・京都・145 名)
- (9) 計装技術交流部会・産業システム部会合同シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (10) 第 6 回流体計測制御シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (11) 計測・制御ネットワーク部会シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (12) 第 22 回誘導制御シンポジウム (05.10.24-25・大阪・54 名)
- (13) 第 31 回リモートセンシングシンポジウム (05.10.31-11.1・筑波・44 名)
- (14) 第 34 回制御理論シンポジウム (05.10.31-11.2・大阪・171 名)
- (15) 第 10 回パターン計測シンポジウム (05.11.4-5・石川・16 名)

(10) 部門活動

1. 計測部門 委 3 回 部門大会 1 回
 - (ア) センシングフォーラム委員会 委 4 回
 - (イ) 温度計測部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
 - (ウ) 力学量計測部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回, 共催行事 2 回, 協賛行事 1 回

- (e) リモートセンシング部会 委 8 回, 部会企画行事 4 回
- (f) パターン計測部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
- (g) センシングフォトニクス部会
- (h) 先端電子計測部会 部会企画行事 1 回
- (i) ネットワークセンシングシステム部会 部会企画行事 1 回
- 2. 制御部門 委 4 回 部門大会 1 回 セミナー 7 回
 - (f) 制御技術部会 委 4 回, 部会企画行事 2 回
 - (g) 制御理論部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
 - (h) マルチレゾルブドシステム調査研究会 研究会企画行事 6 回
 - (i) 知的システム構築のための適応学習制御調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 3 回
 - (j) 先端制御技術のビーグル応用調査研究会 研究会企画行事 1 回
 - (k) 非線形ダイナミクスの特異構造から調査を考える調査研究会 研究会企画行事 3 回
 - (l) 生物制御調査研究会 研究会企画行事 2 回
- 3. システム・情報部門 委 3 回 部門大会 1 回, 協賛行事 1 回
 - (f) システム工学部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
 - (g) マンマシンシステム部会 委 2 回, 部会企画行事 3 回
 - (h) 知能工学部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回, 共催行事 1 回
 - (i) 生体・生理工学部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
 - (j) 自律分散システム部会 委 4 回, 部会企画行事 5 回
 - (k) ニューラルネットワーク部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (l) 離散事象システム部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (m) SMC 国内委員会 協賛行事 1 回
 - (n) 身体・脳・環境の相互作用による適応的運動機能の発現に関する調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 2 回
- 4. システムインテグレーション部門 委 9 回, 部門大会 1 回, 部門企画行事 1 回, 共催行事 5 回
 - (j) メカトロニクスシステム部会
 - (k) 自動化システム部会 委 4 回, 部会企画行事 5 回
 - (l) ロボティクス部会 部会企画行事 1 回, 共催行事 1 回
 - (m) 福祉工学部会 委 8 回, 部会企画行事 9 回
 - (n) VR 工学部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回
 - (o) レスキュー工学部会 部会企画行事 1 回, 共催行事 5 回
 - (p) ユニバーサルデザイン部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (q) 相互作用と賢さ部会 委 1 回, 部会企画行事 3 回
 - (r) 共創システム部会 部会企画行事 5 回
 - (s) ロボット・セラピー部会 委 4 回, 部会企画行事 5 回, 共催行事 8 回
 - (t) 安全回復システム部会 委 1 回
 - (u) バイオシステム部会 委 1 回
 - (v) RT システムインテグレーション部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回
 - (w) ソフトマテリアル応用部会
 - (x) モーションメディア調査研究会 委 4 回, 部会企画行事 1 回
- 5. 産業応用部門 委 4 回, 部門大会 1 回
 - (j) 産業システム部会 委 4 回
 - (k) 計装技術交流部会 委 9 回, 部会企画行事 4 回
 - (l) 流体計測制御部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
 - (m) 計測・制御ネットワーク部会 委 4 回, 共催行事 1 回
- 6. 先端融合部門 委 3 回
 - (j) SICE 領域技術教育における企画・設計能力開発と評価に関する調査研究会 委 2 回
 - (k) 人工生命システム調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 2 回, 共催行事 2 回
 - (l) 次世代医療福祉システム調査研究会 委 3 回, 研究会企画行事 2 回
 - (m) バイオミメティックマシン調査研究会 研究会企画行事 4 回

(11) 国際会議 (共催)

- (1) 第 10 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB)

(05.2.4-6・別府)

- (2) 第7回自律分散システム国際会議 (05.4.4-6・中国・成都)
- (3) 2005 ICME International Conference on Complex Medical Engineering-CME 2005 (05.5.15-18・高松)
- (4) Fourth International Workshop on Soft Computing as Transdisciplinary Science and Technology (05.5.25-27・室蘭市)
- (5) 2005 年 IEEE ワークショップ先端ロボット技術とその社会的影響(ARSO'05) (05.6.12-15・名古屋)
- (6) 2005 IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE2005) (05.6.20-23・Dubrovnik, Croatia)
- (7) Twelfth International Conference on Composites/Nano Engineering (ICCE-12) (05.8.1-6・Tenerife, Spain)
- (8) 2005 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2005) (05.8.2-6・Albara, Canada)
- (9) 2005 IEEE International Conference on Control Applications (CCA) (05.8.28-31・Toronto, Canada)
- (10) The 31st Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON'05) (05.11.6-10・Raleigh, U.S.A.)
- (11) 2005 国際シンポジウム「マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス」(MHS2005) (05.11.7-9・名古屋)
- (12) 第6回フルードパワー国際シンポジウム (05.11.7-10・つくば)
- (13) 2005 44th IEEE Conference on Decision and Control and European Control Conference (CDC-ECC 2005) (05.12.12-15・Seville, Spain)

(12) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズを刊行中

(13) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売)
- (2) " (機器・応用編)(オーム社より販売)
- (3) 教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座 累計 664 セット
- (4) SICE-BASE 30 累計 164 本
- (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売)

Ⅲ 学 会 賞 平成17年度計測自動制御学会賞(敬称略)

(1) 功 績 賞

(該当なし)

(2) 論 文 賞 10 編 31 名

- 論文賞・蓮沼賞 : 喜安千弥, 藤村貞夫
- 論文賞・武田賞 : 丸田 浩, 加納 学, 久下本秀和, 清水佳子
- 論文賞・友田賞 : 佐野明人, 西 恒介, 宮西英樹, 藤本英雄
- 論文賞 : 篠原寿広, 高山潤也, 大山真司, 小林 彬
- : 山本直樹, 津村幸治, 原 辰次
- : 東 俊一, 井村順一
- : 宮里義彦
- : 安藤昌和, 西 竜志, 小西正躬, 今井 純
- : 井澤 淳, 近藤敏之, 伊藤宏司
- : 高木康夫, 岩渕一徳, 村山 大, 船津徹也

(3) 技 術 賞 5 篇 15 名

- 技術賞 : 田中正吾
- : 山本友繁, 山崎吉夫
- : 友近信行, 中山万希志, 前田知幸, 新谷裕和
- : 新名伸仁, 本木利昌, 佐藤恵二, 小林靖典, 河野哲士
- : 石羽正人, 藤井良樹, 藤田有人

(4) 著 述 賞 2 編 3 名

: 大住 晃
: 内山 勝, 中村仁彦

(5) 新製品開発賞

(該当なし)

(6) 教育貢献賞 1 件

: 原 辰次

(7) 学術奨励賞

研究奨励賞 10 名

: 牧野 泰才, 熊谷 正朗, 畑中 健志, 加嶋 健司, 白根 一登,
谷口 忠大, 河島 則天, 妹尾 拓, 初雁 卓郎, 森田 宏

技術奨励賞 4 名

: Jun Yamane, Kanako Hattori, 森屋 彰久, Masahiro Yoshikawa

(8) SICE Annual Conference Award

International Award 2 編 2 名

: Matthew C. Turner
: Tetsuya Akagi

Young Author's Award 1 編 1 名

: Takayuki Iwamoto

IV 名誉会員 平成 17 年度名誉会員証贈呈 1 名(敬称略)

: 美坂佳助

V フェロー 平成 17 年度フェロー称号贈呈 3 名(敬称略)

: 山本 裕
: 雛元孝夫
: 李 柱張

VI SICE 認定計測制御エンジニア認定試験合格者

初級計測制御エンジニア 1 名

: 山崎俊平

計測制御エンジニア補 (受験者なし)

計測制御エンジニア 3 名

: 山田隆章, 下村昌弘, 高木康夫

計測制御エンジニア (推薦認定) 14 名

: 高津春雄, 須田能充, 中里卓治, 戸荻吉孝, 曾禰寛純, 生田誠司,
重政 隆, 江木博志, 尾花英夫, 高橋亮一, 大谷哲也, 富田芳生,
伊藤利昭, 江木紀彦

VII 部門賞・支部賞

1. 計測部門

研究・技術奨励賞 : 阿部浩士, 谷澤 健, 林 敏行, 山本 健, 蔦田広幸

2. 制御部門

パイオニア賞 : 浅井 徹

部門大会賞 : 児島 晃

3. システム・情報部門

優秀論文賞 : 岡本 卓, 相吉英太郎, 牧 厚志

奨励賞 : 斎藤 浩, 浜口賢一, 平岡創土

4. システムインテグレーション部門

技術業績賞 : 該当なし

学術業績賞 : 福田敏男

奨励賞 : 八木 透, 渡部眞三, 向井利春

功績賞 : 水川 真

貢献賞 : 該当なし

ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会国際賞
 : Cameron Skinner, University of Auckland, New Zealand
 ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会国際賞
 : Rescue Robot Freiburg, University of Freiburg, Germany
 レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞 (レスキュー工学大賞)
 : 援・越乃樞チーム (長岡技術科学大学 ロボコンプロジェクト)

5. 産業応用部門
 - 奨励賞 : Tatsuya Funaki, Muhamad Aizuddin
 - 技術賞 : 榊 和敏, 平井正昭・水野末良・上村晃正・秋月博光・関本陽一
6. 北海道支部 (なし)
7. 東北支部
 - 奨励賞 : 秋田敏宏, 大瀧保明, 斎藤和樹, 加納拓貴, 水野弘基, 渡邊紘充
8. 中部支部
 - 研究賞 : 矢野賢一 (岐阜大学)
 - 奨励賞 : 弓場井一裕 (三重大学), 松野隆幸 (名古屋大学)
9. 北陸支部
 - 優秀論文賞 : 池田雅理 (金沢工業大学)
10. 関西支部 (なし)
11. 中国支部 (なし)
12. 四国支部 (なし)
13. 九州支部
 - 奨励賞 : 山口 生(九州工業大学), 光安 隆(九州大学),
井上 学(九州工業大学), 志岐 武宣(九州工業大学)

VIII 会 議

1. 総 会 第 44 回定時総会 (05.2.22・東京大学山上会館)
2. 理事会 6 回, 拡大 1 回, 常務理事会 2 回
3. 役員・評議員懇談会 1 回
4. 支部協議会 3 回
5. 賛助会員懇談会 1 回
6. 関連団体懇談会 1 回
7. 各種委員会
 - 企画委員会 (委員会 2 回, WG15 回)
 - 会員・広報委員会 (打合せ 1 回)
 - 学会賞委員会 (3 回)
 - フェロー選考委員会 (1 回)
 - 部門協議会 (7 回)
 - 国際委員会 (4 回)
 - SICE Annual Conference 2005 in Okayama (実行委 4 回, 準備会 1 回, プログラム委員会 1 回)
 - SICE-ICASE Jioint International Joint Conference 2006 in Busan (実行委 4 回, WG1 回)
 - IFAC 委員会 (小史編集委員会 1 回)
 - 事業委員会 (5 回)
 - 教育・認定委員会 (5 回, WG7 回)
 - 会誌編集委員会 (6 回, WG4 回, 特別 1 回)
 - 論文集委員会 (8 回)
 - 産業論文委員会 (3 回, 打合せ 2 回)
 - 総務委員会 (6 回)

IT 委員会	(委員会 1 回, 打合せ 1 回)
学会モデル委員会	(打合せ 2 回, 研究会 2 回)
組込み・ハイブリッドシステム(EHS)調査研究会	(研究会 2 回, 検討会 1 回)
役員候補者推薦委員会	(2 回)

8. 支部関係

- (1) 北海道支部 総会 1 回, 幹事会 3 回, 評議員会 3 回
- (2) 東北支部 総会 1 回, 運営専門委員会 5 回, 役員・評議員・運営専門委員合同委員会 1 回
- (3) 中部支部 総会 1 回, 役員会 4 回, 評議員会 1 回, 事業委員会 5 回
- (4) 北陸支部 総会 1 回, 幹事会 5 回, 幹事・評議員合同会議 1 回
- (5) 関西支部 総会 1 回, 幹事会 6 回, 特別幹事会 1 回
- (6) 中国支部 総会 1 回, 役員会 3 回, 拡大幹事会 1 回
- (7) 四国支部 総会 1 回, 役員会 2 回
- (8) 九州支部 総会 1 回, 役員会 4 回, 評議員会 3 回, 事業委員会 2 回

IX その他

1. 国際関係

- (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
- (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
- (3) APFICS への協力
- (4) ISA, CIS, IEEE, ICASE, CAC, CAA との交流
- (5) 来日外国学識者との交流

2. 国内関係

- (1) 日本工学会等関連学協会への協力(事業協賛, 後援など)
- (2) システム制御情報学会との事業協力
- (3) JABEE への協力
- (4) 横幹連合への協力

◇平成17年度収支計算書総括表
(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)

(単位：円)

科目	部門	計測自動制御 学会合計	本部会計	部門合計	支部合計	内部取引消去
I 収入の部						
1. 基本財産運用収入		11,523	11,523	0	0	0
2. 会費収入		98,444,950	98,444,950	0	0	0
3. 事業収入		112,599,655	72,166,049	35,894,423	4,539,183	0
4. 寄付金収入		0	0	0	0	0
5. 雑収入		6,633,034	6,517,403	59,374	56,257	0
6. 固定資産売却収入		0	0	0	0	0
7. 基金特定預金取崩収入		26,473,481	23,870,412	1,240,970	1,362,099	0
8. 繰入金収入		1,042,187	6,883,732	9,531,594	13,584,450	△ 28,957,589
当期収入合計(A)		245,204,830	207,894,069	46,726,361	19,541,989	△ 28,957,589
前期繰越収支差額		57,818,644	44,896,048	8,923,309	3,999,287	0
収入合計(B)		303,023,474	252,790,117	55,649,670	23,541,276	△ 28,957,589
II 支出の部						
1. 事業費		144,320,318	99,174,522	33,788,060	11,357,736	0
2. 管理費		82,959,544	74,630,500	1,583,117	6,745,927	0
3. 固定資産取得支出		0	0	0	0	0
4. 基本財産繰入支出		1,000,000	1,000,000	0	0	0
5. 基金特定預金支出		13,397,610	8,173,461	5,102,568	121,581	0
6. 繰入金支出		0	23,116,044	5,159,521	682,024	△ 28,957,589
7. 予備費		0	0	0	0	0
当期支出合計(C)		241,677,472	206,094,527	45,633,266	18,907,268	△ 28,957,589
当期収支差額(A)-(C)		3,527,358	1,799,542	1,093,095	634,721	0
次期繰越収支差額(B)-(C)		61,346,002	46,695,590	10,016,404	4,634,008	0

◇平成17年度正味財産増減計算書総括表

(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)

(単位：円)

科目	部門	計測自動制御学会 合計	本部会計	部門合計	支部合計
I 増加の部					
1. 資産増加額					
当期収支差額		3,527,358	1,799,542	1,093,095	634,721
資産増加額		17,924,968	10,973,003	6,195,663	756,302
2. 負債減少額					
負債減少額		0	0	0	0
増加の部合計		17,924,968	10,973,003	6,195,663	756,302
II 減少の部					
1. 資産減少額					
資産減少額		29,962,675	27,318,472	1,240,970	1,403,233
2. 負債増加額					
負債増加額		1,519,136	1,519,136	0	0
減少の部合計		31,481,811	28,837,608	1,240,970	1,403,233
当期正味財産増加額		△ 13,556,843	△ 17,864,605	4,954,693	△ 646,931
前期繰越正味財産額		327,282,702	262,327,291	33,869,386	31,086,025
期末正味財産合計額		313,725,859	244,462,686	38,824,079	30,439,094

◇平成17年度貸借対照表総括表

(平成17年12月31日現在)

(単位：円)

科目	部門	計測自動制御学会 合計	本部会計	部門合計	支部合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
流動資産合計		94,675,233	69,839,226	19,473,361	5,362,646
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計		18,000,000	18,000,000	0	0
(2) その他の固定資産					
その他の固定資産合計		274,350,217	219,737,456	28,807,675	25,805,086
固定資産合計		292,350,217	237,737,456	28,807,675	25,805,086
資産合計		387,025,450	307,576,682	48,281,036	31,167,732
II 負債の部					
1. 流動負債					
流動負債合計		33,329,231	23,143,636	9,456,957	728,638
2. 固定負債					
固定負債合計		39,970,360	39,970,360	0	0
負債合計		73,299,591	63,113,996	9,456,957	728,638
III 正味財産の部					
正味財産		313,725,859	244,462,686	38,824,079	30,439,094
負債および正味財産合計		387,025,450	307,576,682	48,281,036	31,167,732

平成 17 年度財産目録総括表

平成 17 年 12 月 31 日

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 現金手許残高	756,206		
普通預金	64,811,743		
郵便振替貯金	2,867,719		
未 収 金	19,793,562		
(会費, 論文集代, 会誌別刷料, 論文別刷料, 部門支部行事参加費, 交付金等)			
立 替 金	835,230		
仮 払 金 (2006 年度部門事業等)	5,610,773		
(SICE2006, 連合講演会, 次年度事業費仮払い分等)			
流動資産合計		94,675,233	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基 本 金 (信託預金、定期預金)	18,000,000		
基本財産合計	18,000,000		
(2) その他の固定資産			
建 物	53,020,964		
什器備品	1,907,303		
退職給与引当預金	34,970,360		
記念事業引当預金	15,273,561		
IT 化推進引当預金	23,076,705		
事務所営繕引当預金	3,370,116		
出版基金	19,255,498		
国際交流振興基金	27,302,139		
産学協同事業推進基金	10,045,491		
蓮沼賞基金	1,847,089		
友田賞基金	1,632,547		
武田賞基金	21,746,244		
預り保証金引当預金	5,000,000		
横断型基幹科学技術振興基金	1,368,021		
システム・情報部門 FAN シンポジウム基金	756,584		
システム・情報部門 SMC 国際交流基金	627,232		
制御部門未来開拓基金	7,978,311		
システム・情報部門自律分散システム部会シンポジウム基金	500,734		
計測部門調査研究会振興基金	2,217,014		
SI 部門インテグレーション基盤開拓基金	8,503,763		
システム・情報部門基盤創成基金	4,400,025		
産業振興活動支援基金	1,824,012		
SI 部門インテグレーション戦略事業基金	2,000,000		
北海道支部学術活動推進基金	1,705,143		
東北支部記念事業基金	109,008		
中部支部記念事業基金	2,551,397		
中部支部支部賞事業基金	1,622,880		
北陸支部学術活動推進基金	3,800,039		

記念事業基金	7,466,490		
学術講演会振興基金	2,405,582		
産学交流振興基金	2,845,102		
講演会基金	1,370,026		
九州支部奨励賞基金	650,737		
九州支部学術活動推進基金	1,200,100		
その他の固定資産合計	274,350,217		
固定資産合計		292,350,217	
資産合計			387,025,450
Ⅱ. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 (会誌・論文集11,12月号, 部門・支部事業費, 一般会計繰入金, 消費税相当額等)	16,996,546		
前受金 (18年度会費・論文集予納分, 次年度事業参加費分)	2,332,960		
預り金 (社会保険料・源泉徴収税預り分, IFAC口座, 連合講演会口座等)	8,716,304		
仮受金(連合講演会, 返金, 保留分等)	5,283,421		
流動負債合計		33,329,231	
2. 固定負債			
退職給与引当金	34,970,360		
預り保証金(広告料保証金)	5,000,000		
固定負債合計		39,970,360	
負債合計			73,299,591
正味財産			313,725,859

◇平成17年度支部収支計算書総括表
(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)

(単位：円)

科目	部門	支部合計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
I 収入の部										
1. 基本財産 運用収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 会費収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 事業収入		4,539,183	504,000	0	245,300	0	1,619,003	1,213,880	0	957,000
4. 寄付金収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 雑収入		56,257	15	7	1,817	51,037	85	688	31	2,577
6. 固定資産 売却収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 基金特定預金 取崩収入		1,362,099	0	0	61,056	0	1,143,900	0	0	157,143
8. 繰入金収入		13,584,450	625,600	1,109,000	3,519,100	814,200	3,324,400	1,630,600	698,600	1,862,950
当期収入合計(A)		19,541,989	1,129,615	1,109,007	3,827,273	865,237	6,087,388	2,845,168	698,631	2,979,670
前期繰越収支差額		3,999,287	352,493	328,909	695,444	282,015	618,277	623,855	199,035	899,259
収入合計(B)		23,541,276	1,482,108	1,437,916	4,522,717	1,147,252	6,705,665	3,469,023	897,666	3,878,929
II 支出の部										
1. 事業費		11,357,736	752,623	824,144	2,378,418	196,418	3,199,498	1,391,016	439,903	2,175,716
2. 管理費		6,745,927	394,073	297,264	1,479,628	384,021	2,681,118	708,608	78,466	722,749
3. 固定資産 取得支出		0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 基本財産 繰入支出		0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 基金特定 預金支出		121,581	11	1	708	24	80	684	120,018	55
6. 繰入金支出		682,024	10,080		4,927	142,909	32,380	384,607	90,131	16,990
7. 予備費		0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期支出合計(C)		18,907,268	1,156,787	1,121,409	3,863,681	723,372	5,913,076	2,484,915	728,518	2,915,510
当期収支差額 (A)-(C)		634,721	△ 27,172	△ 12,402	△ 36,408	141,865	174,312	360,253	△ 29,887	64,160
次期繰越収支差額 (B)-(C)		4,634,008	325,321	316,507	659,036	423,880	792,589	984,108	169,148	963,419

◇平成17年度支部正味財産増減計算書総括表

(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)

(単位：円)

部門 科目	支部合計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
I 増加の部									
1. 資産増加額									
当期収支差額	634,721	0	0	0	141,865	174,312	360,253	0	64,160
資産増加額	756,302	11	1	708	141,889	174,392	360,937	120,018	64,215
2. 負債減少額									
負債減少額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
増加の部合計	756,302	11	1	708	141,889	174,392	360,937	120,018	64,215
II 減少の部									
1. 資産減少額									
当期収支差額	0	27,172	12,402	36,408	0	0	0	29,887	0
資産減少額	1,403,233	41,837	38,871	97,464	0	1,143,900	0	29,887	157,143
2. 負債増加額									
負債増加額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減少の部合計	1,403,233	41,837	38,871	97,464	0	1,143,900	0	29,887	157,143
当期正味財産増加額	△ 646,931	△ 41,826	△ 38,870	△ 96,756	141,889	△ 969,508	360,937	90,131	△ 92,928
前期繰越正味財産額	31,086,025	2,091,106	524,151	4,930,069	4,082,030	9,228,587	5,873,855	1,449,043	2,907,184
期末正味財産合計額	30,439,094	2,049,280	485,281	4,833,313	4,223,919	8,259,079	6,234,792	1,539,174	2,814,256

◇平成17年度支部貸借対照表総括表

(平成17年12月31日現在)

(単位：円)

部門 科目	支部合計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
I 資産の部									
1. 流動資産									
流動資産合計	5,362,646	325,321	372,101	663,963	566,789	824,969	1,369,715	259,379	980,409
2. 固定資産									
(1) 基本財産									
基本財産合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他の固定資産									
その他の固定資産合計	25,805,086	1,723,959	168,774	4,174,277	3,800,039	7,466,490	5,250,684	1,370,026	1,850,837
固定資産合計	25,805,086	1,723,959	168,774	4,174,277	3,800,039	7,466,490	5,250,684	1,370,026	1,850,837
資産合計	31,167,732	2,049,280	540,875	4,838,240	4,366,828	8,291,459	6,620,399	1,629,405	2,831,246
II 負債の部									
1. 流動負債									
流動負債合計	728,638	0	55,594	4,927	142,909	32,380	385,607	90,231	16,990
2. 固定負債									
固定負債合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
負債合計	728,638	0	55,594	4,927	142,909	32,380	385,607	90,231	16,990
III 正味財産の部									
正味財産	30,439,094	2,049,280	485,281	4,833,313	4,223,919	8,259,079	6,234,792	1,539,174	2,814,256
負債および正味財産合計	31,167,732	2,049,280	540,875	4,838,240	4,366,828	8,291,459	6,620,399	1,629,405	2,831,246